

三重県 産廃協

(一社)三重県産業廃棄物協会青年部は11月14-16日、韓国・ソウルで北勢地区海外視察研修会を行った。青年部会員14人の他、日報ビジネス、韓国工業新聞社、スポーツソウルなどから約5人が参加し、現地の産業廃棄物処理施設2社を訪問。同国の建設廃棄物やプラスチックのリサイクル動向について、熱心に学び合った。

韓国のリサイクル施設を視察

IK(仁川広域市、実績を持つ。敷地面積は国内最大規模の2万3000坪。建物は日外からの見学者も多く、模範施設として評価されているという。1日当りの搬入量は4000-5000ト。処分費はRCで1ト当たり1万円(運搬別途)、は、設立11年の廃プラスチック処理施設で、処理量は1カ月当たり1200トに上る。主に周辺地域の家庭から出るPP・PE・PSを種類別に分別したものを、専門業者を通じて回収。圧縮、破碎、洗浄、溶解の工程を経て、ペレット状の再生原料として製造・販売する。再生用途は、パレットやプラントなどで、再び回収して2回ほど再利用できるという。また、再生不可の場合は、焼却し熱エネルギーとして利用するか、RPFといった固形燃料にリサイクルし、徹底した資源循環を図っている。



「IK」の屋内型建廃処理施設

青年部が 海外研修会で



「大明リサイクリング」施設見学の様子

同国では最近の法改正に伴い、建廃中間処理は屋内施設で行うことが義務付けられた。国内には建廃業者が約500社あるが、今後2年間ですべての屋外施設が変更される見込みだ。また、同国では製造事業者が負担金を支払い、環境省が廃棄物リサイクルの補助金としている。建設廃棄物も受入量によって支援を受けられる制度が整備されているという。大明リサイクリング(金浦市、シン・ピルシ